

カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現に向けた大きな一歩

NGPとJTP、「大型自動車リサイクル部品の環境負荷低減効果の研究」第一弾の成果報告を発表

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合と、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会（新井栄代表理事、JTP）は、富山県立大学及び明治大学との産学共同研究として進めている「大型自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」における第一弾の成果報告を、5月28～30日の3日間東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された「第34回2025NEW環境展」のJTPブースで展示・発表しました。

■研究の概要と目的

本研究は、LCA（ライフサイクルアセスメント）手法を用いて、新品部品とリサイクル部品の製造工程におけるCO₂排出量を比較・分析し、大型自動車分野におけるリユース部品の環境効果を科学的に定量化することを目的としています。リユース部品の環境効果を数値で「見える化」し、ユーザーの理解と選択を後押しすることで、サーキュラーエコノミーの実現に貢献することを目指しています。

■研究体制と調査の背景

今回発表した研究成果は、これまでに実施された4回にわたる現地調査に基づいています。NGP「サステナブル委員会」及びJTP「環境委員会」協力のもと、富山県立大学・明治大学の教員及び学生らの主導によって、解体工場におけるCO₂排出量の調査、自動車部品の重量・素材構成の分析などを行ってきました。

■第一弾の成果：エンジン・トランスミッションにおけるCO₂削減効果を明確に

今回の成果では、国内メーカーの大型トラック（積載量15tクラス）を対象に、エンジン及びトランスミッションのリユース部品について、CO₂排出量を比較しました。その結果、**図1**のような大きな削減効果が確認されました。

この研究成果から、エンジン1基当たりブナの木約317本分*のCO₂吸収量に相当することが分かり、1部品のみでも大きな環境貢献となることが明らかになりました。

NGPとJTPは、今後さらに調査対象車種や部品を拡大していくとともに、研究成果を通じてリユース部品の環境価値を広く

発信し、その利用拡大に向けて取り組んでまいります。

*ブナの木1本あたりのCO₂吸収量は、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の試算によるもの（樹齢100年・立木密度500本/haのブナ林を想定）。地域条件により異なります。

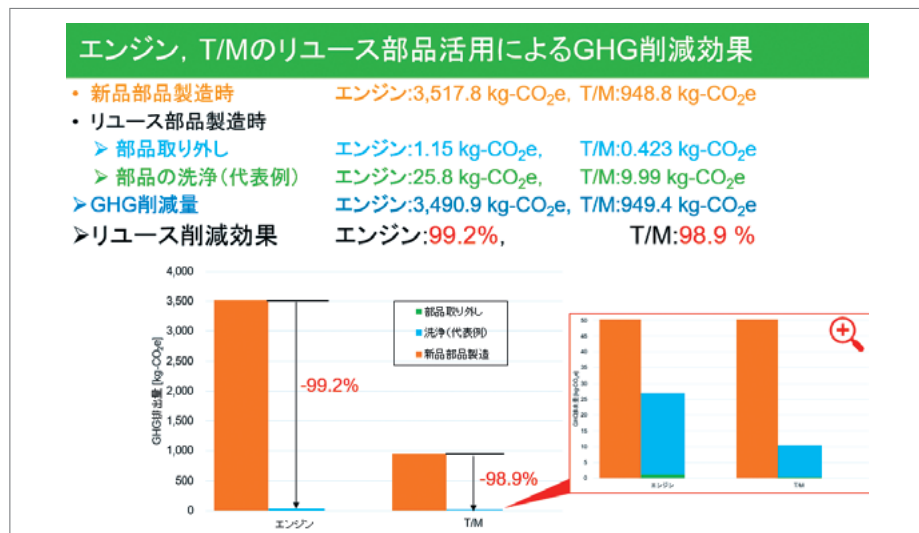


第34回2025NEW環境展の日本トラックリファインパーツ協会ブースで、研究成果を展示・発表。JTP・笠原健司副代表理事（左）、同・竹中優一専務理事（右）、富山県立大学・山田周歩講師

図1 エンジン・トランスミッションにおけるCO₂削減効果

対象部品	CO ₂ 削減効果(※)	CO ₂ 削減量(kg-CO ₂ e)
エンジン	99.20%	3,490.90
トランスミッション	98.90%	949.4

※「CO₂削減効果」は、新品部品を使用する場合に比べて期待できるCO₂削減の割合



持続可能な社会の実現を目指した 各種取り組みを紹介

環境問題や地球温暖化問題の解決に向けた技術・サービスの発信を目的とした2025NEW環境展／2025地球温暖化防止展が、5月28～30日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催され

ました。

会場内では企業や団体、研究機関などが資源循環を目的としたリサイクル技術やCO₂削減に寄与する省エネルギー技術、EV活用支援サービスなど幅広い領域にわ

たる環境関連製品・サービス及び活動内容を紹介しました。来場者数は3日間合計で96,192人に上っています。



いすゞ自動車

ELF EV導入事例の紹介と併せて、EVトラック導入に伴う課題解決を目的とした、トータルソリューションプログラムを提案。導入の検討、導入～利用、導入効果検証の各段階において解決策を提案することで、EVトラックの導入から運用までをサポート



日野自動車／日野コンピューターシステム

車両から送られてくるデータを利用して、緊急時の対応や省燃費運転、安全運転指導などをサポートする「HINO CONNECT」を紹介。同システムで収集した車両データの活用方法として、水素ステーションの最適立地予測や道路事業のCO₂削減効果検証などを提案した



日本トラックリファインパーツ協会／ジェイ・ティ・ビー

「大型自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の研究結果を発表。また、AI技術を活用して来場者からの質問に回答するオリジナルキャラクターで、協会の活動内容などをPRした

最新材料及び関連設備機器に関する 幅広い技術情報が集まる

第13回高機能素材Week 大阪が5月14～16日の3日間、インテックス大阪（大阪府大阪市）で開催されました。

同イベントは、高機能素材、リサイクル技術、レーザー技術に関する総合展示会です。「サステナブルマテリアル展」、「高機

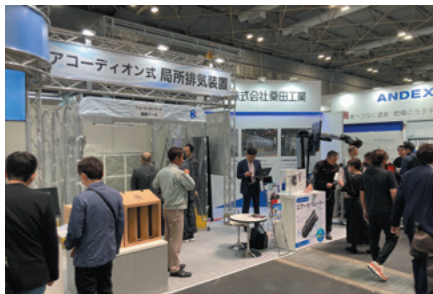
能金属展」、「高機能プラスチック展」、「高機能フィルム展」、「塗料・塗装設備展」、「Photonix-光・レーザー技術展-」、「高機能セラミックス展」、「接着・接合EXPO」に、今回から新たに「素材工場の脱炭素化展」と「リサイクルテックジャバ

ン」が加わりました。また「Factory InnovationWeek 2025」も同時開催されました。全386社（高機能素材Week大阪出展のみ）が出展し、来場者数は3日間合計で36,013人（前年21,132人）でした。



アンデックス

特許出願中の循環型粉体塗装ブース「CAB ADC」や、2026年2月ごろに発売予定の溶剤除去装置「SOLCOL」（川崎重工業と共同開発）をPR



栗田工業

アコーディオン式局所排気装置や粉体塗装用集塵装置、フィルターレスのエアセパレーターなど主力製品を実演展示し注目を集めた



サンスター技研

2液混合型構造用接着剤「ペンギンパネルボンド1041J／1042J」や、ペンギンフォームを塗布したドアモジュールやドアロックカバーを披露

(株)オートパーツ伊地知、 地元小学生の工場見学を受け入れ

NGP組員である(株)オートパーツ伊地知(伊地知志郎社長、鹿児島県鹿児島市)は5月27日と30日、地元小学校の5年生による社会科見学を受け入れ、工場見学会を開催しました。27日には約50人、30日には約200人の児童と引率教員などが同社を訪問しました。

当日は、まず座学で自動車リサイクルの仕組みやSDGsの実現に向けた業界の取り組みなどについて紹介しました。その後の工場見学では、使用済み自動車が工場に入庫するところから、エアバッグやオイルなどの適正処理、リユース部品の生産、鉄や銅などの分別、解体の流れについて各工程

ごとに説明しました。解体作業を見学した小学生からは、ニブラの動きの速さや力強さに対する驚きの声が上がりました。

伊地知社長は「実際に自動車解体の工程や作業を見学してもらうことで、リサイクルへの理解を深めることができます。こうした取り組みを通じて、地域住民に当社の



事業内容や環境への取り組みを知ってもらい、理解促進につながることを期待しています。今後も工場見学の積極的な受け入れをはじめ、地域の様々な社会貢献活動に尽力していきます」と、各種取り組みを通じて自動車リサイクル業界の認知度向上につなげていく姿勢を示しました。



岡山大学との産学連携で、豊島に自生している植物を 植える「見本園」を作るための整備作業を行う

NGP協同組合は6月4・5日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を実施しました。第18回目となる今回は、前回に続き主に「岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授との産学連携による豊島植生回復活動」を行いました。

今回は、組員と本部職員15人に加え、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会(JTP)から4人が初めて参加し、合計19人で作業を行いました。NGPとJTPは「大型自動車リサイクル部品の環境負荷低減効果に関する産学共同研究」に取り組んでおり、同じ自動車リサイクル事業者として豊島の環境保全活動の力になりたいとの想いから、今回ご参加いただきました。

岡山大学との産学連携による植生回復活動

今回は、産業廃棄物不法投棄現場を見渡

すことができる展望台まで続く階段横に、豊島に自生している植物を植える「見本園」を作るための整備として、雑草の除去、水や土砂の侵入を防ぐための土嚢の設置、竹の切り出し、竹で出来た柵の作成、苗木を植えるための砂の運搬などを行いました。また、岡山大学が豊島の植生回復の研究をしている区画では、雑草を取り除きました。植栽した植物の芽を刈ることがないように、手作業で行いました。

嶋教授は「本来の豊島の植生が分かるような見本園は、豊島でとれた竹や砂を使って作り、いずれ腐るもの、ゴミにならないもの、豊島の中にあるものだけで完結させたいと考えています。また、植生回復活動地の雑草は、養分が地上部にある夏場に刈り取ることで、再発しにくくなります。そのお手伝いをNGPさんをお願いしたいと

思います」と、今回の活動の目的を教えてくださいました。

豊島で起きた不法投棄事件による環境被害は、まだ完全に回復できていません。NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金、岡山大学と協力して、「豊島事件」の悲劇を二度と繰り返さないために環境保全・再生活動と3Rの大切さを後世に伝える活動に取り組んでまいります。



NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和7年5月：

1,909t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目(左右ある部品を含むと115品目)と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和7年5月：

0.4t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



NGP協同組合は5月27～29日の3日間、BurnB東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第34回基礎研修会を開催しました。

基礎研修会とは、三大信条をはじめとしたNGPの基本理念をしっかりと体得するための研修です。初日の開会式で登壇した小林信夫理事長は、NGPの歴史を紹介した上で「創立から40年が経ち、NGPは時代に即して変化してきました。しかし、共有在庫を核とした組織であることは変わりません。そしてこの核となる共有在庫は、ただ部品を共有しているわけではありません。私の会社とあなたの会社で、同じ定義に基づいて部品を作らなければなりません。“私の倉庫はあなたの倉庫、あなたの倉庫は私の倉庫”、この考え方がNGPの基本です。NGPの組合員が仲間として同じ研修を受けて、

同じ定義のもと仕事をするのが大切で」と、お客様に高品質な商品を届けるために欠かせない、NGPの考え方を伝えました。そして、「この研修でNGPを少し理解して会社に帰り、会社の仕事を通じてNGPへの理解をさらに深め、会社に貢献し、ひいてはNGPに貢献してもらいたいと思います」と、受講生を激励しました。

3日間の研修を終えて、(有)オートリ



受講生を激励する小林信夫理事長

サイクルナカシマ福岡の石井菜々子さんは「研修会が終わってからNGP三大信条を読み返した際、ただ文言として覚えていた時とは違い、込められた意味を強く感じました。今後の業務において研修会で学んだことを活かしながら、これからもNGPマンとして成長していけるように精進します」と、研修を確かな学びにつなげていました。



3日間の研修を終えて、修了式に臨む受講生たち

第15回自動車基礎研修会を開催

自動車の構造や修理技法への理解を深め、商品品質のさらなる向上につなげる

NGP協同組合は5月21～23日の3日間、あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センター（静岡県裾野市）で第15回自動車基礎研修会を開催しました。

自動車の材料と構造、復元修理技法の概要、エンジンや駆動装置、トランスミッション、駆動装置、サスペンション装置、ステアリング装置、ブレーキ装置の構造などについて、座学と実技講習で学びました。

3日間の研修を終えて、(株)アシスト・フクダの柳原潤己さんは「帰社後、講義の内容をいち早く社内に還元し、この研修の効果を一層高めていきたいです。どう教えるか、どう興味を持ってもらうか、新人育成に対する一つの姿勢を学ぶことができたように思います。立場上、組織の成長に責任があるため、NGPグループの今後の発展のためにも、後進の育成により一層励んでいきます」と、研修で

学んだことを会社全体の発展につなげていく考えを示しています。



組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	エコパーツ岐阜株式会社	会社代表	代表取締役 河田昌宏	2025年6月2日
九州	WARC西日本オートリサイクル株式会社	会社代表	代表取締役 小山勝生	2025年6月27日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>